スポーツ庁
JAPAN SPORTS AGENCY

# 【京都府舞鶴市】
# 令和５年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業
# （運動部活動の地域移行に向けた実証事業）

| | |
|---|---|
| 自治体名 | 京都府舞鶴市 |
| 担当課名 | 教育委員会　学校教育課 |
| 電話番号 | 0773-66-1031 |

# 1．自治体の基本情報

## 基本情報

| | | | |
|---|---|---|---|
| 人口 | ７６８３８人 | 部活動数 | 79部活 |
| 公立中学校数 | ７校 | 市区町村の協議会・検討会議等の設置状況 | 設置済 |
| 公立中学校生徒数 | 1,992人 | 市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況 | 策定に向けて準備中 |

## 地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

舞鶴市は京都府の北部にあり、城下町として発展してきた西地区と明治時代に軍港として街づくりがされた東地区からなる。中学校は生徒数400人程度の中規模校が４校と100人弱の小規模校が３校の計7校がある。少子化等の影響で生徒数と教員数は減少傾向にあり、どの学校も休部や廃部、合同チームの設置が増えるとともに、複数顧問の配置ができなかったり、経験の無い教師が指導しなければならなかったりと様々な課題を抱えている。また、五老ヶ岳という山を境に東西に分かれているため、東西間は自転車での移動が難しく、市街地周辺では活動場所までの距離が長いため、保護者送迎が必要であるという課題もある。

本市は令和３年度から国の地域部活動推進事業を受託し、部活動の段階的な地域移行に向けた取組を進めてきた。令和３年度は、市スポーツ協会所属の協会や連盟の主導で合同練習を実施した経験がある「柔道」「剣道」「陸上競技」の３競技で事業を実施した。令和４年度は、団体競技の「ソフトボール」と既存の部活動にはない「基礎部活」の２競技を加えて実施した。「基礎部活」とは競争や勝敗に強くこだわらないレクリエーションスポーツ（ゆる部活）と運動の基礎となるストレッチやトレーニング（トレーナー部活）のことで、総合型地域スポーツクラブが中心に取り組んだ。

どの競技も学校単位から舞鶴市単位の活動ができ、生徒からは「他校と一緒に練習ができて嬉しい」「たくさんの先生に教えてもらえてよかった」という声が多くあり、この事業を通じて地域移行の一つの形が作れたことは大きな成果であった。一方、保護者から「専門的な指導は嬉しいが、送迎が大変」「今後金銭面の保護者負担になることに抵抗がある」という声や、教師から「まだ部活動の地域移行が生徒や保護者に浸透していない」という声もあり、教育委員会だけではなく、舞鶴市全体で取り組むことの重要性を共通理解とした。令和5年度は、市長部局との連携をより強化し、本市の実状に応じた地域移行を検討するとともに、競技種目を増やし様々なパターンでの取組を進めていくこととした。

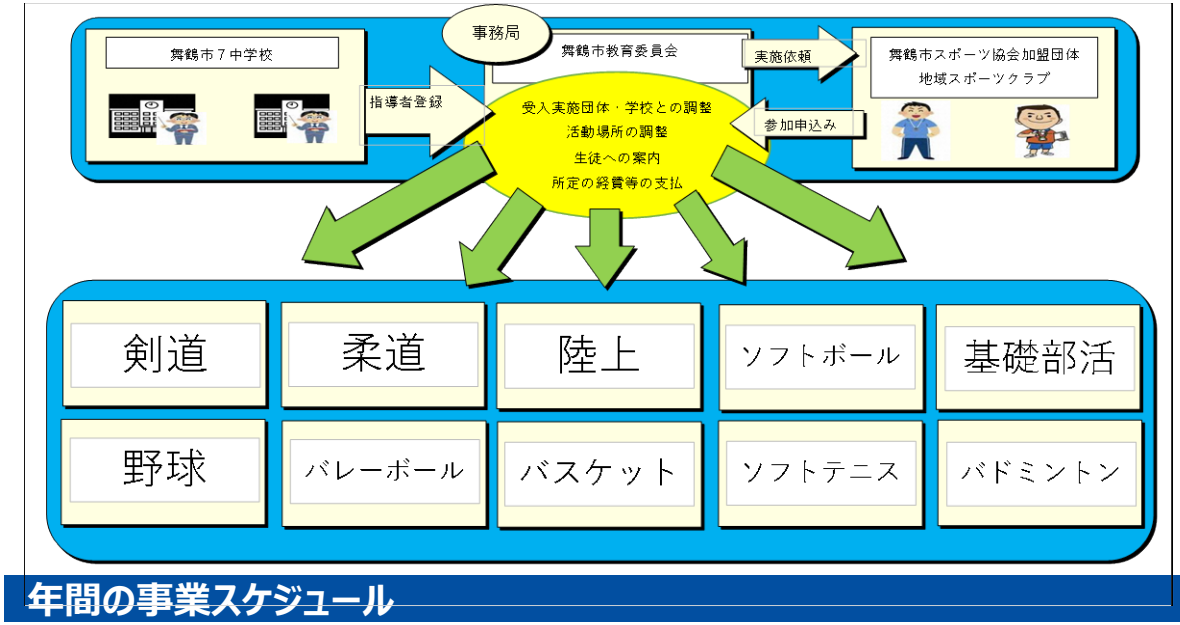


# 2．実証内容と成果

スポーツ庁

## 運営体制・役割

### ▼運営体制図（市区町村における推進体制図）




### ▼行政組織内での役割分担

● **教育委員会**（学校教育課）
・受入実施団体、学校との調整
・生徒、保護者への連絡
・所定の経費等の支払

● **市長部局**（スポーツ振興課）
・活動場所の確保
・スポーツ団体への説明
・指導者研修会の実施

● **教育委員会と市長部局合同**
・舞鶴市の部活動地域移行への計画・立案
・舞鶴市部活動地域移行あり方検討会の開催
・アンケートによる実態調査の計画・実施
・広報活動

## 年間の事業スケジュール

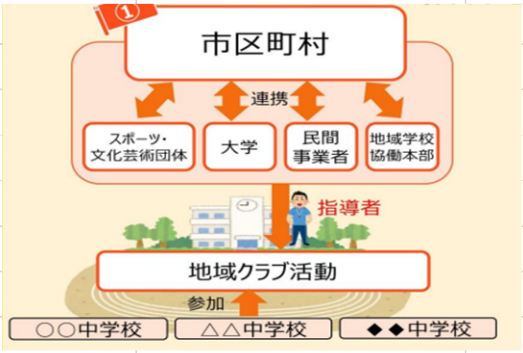
| | |
|---|---|
| ６月12日 | 舞鶴市スポーツ協会へ部活動地域移行の説明及び地域スポーツクラブの調査依頼 |
| ７月26日 | 各協会・連盟、地域スポーツクラブへ地域移行実証事業の参加募集 |
| ８月10日 | 第１回舞鶴市部活動地域移行あり方検討会の実施 |
| ８月22日 | 各学校の実証事業対象部活動の顧問との日程調整開始 |
| ９月 4日 | 地域移行実証事業参加団体への説明及び実施日の調整 |
| ９月 7日 | 中学校長会への説明及び協力依頼 |
| ９月15日 | 各中学校1、2年生へ参加募集案内発送 |
| ９月30日 | 実証事業開始 |
| 11月13日 | 児童・生徒、保護者、教師、各スポーツ団体、文化団体へアンケートによる実態調査依頼 |
| 12月22日 | 第２回舞鶴市部活動地域移行あり方検討会の実施 |
| ３月21日 | 第３回舞鶴市部活動地域移行あり方検討会の実施 |

年間を通じて市教委と市長部局で合同会議を行い、連携して実施

# 2．実証内容と成果

## 年間の事業スケジュール（事業のパターンと実施日程等）

### 実証事業パターン1：「複数の地域クラブ活動から選択し参加する」




○舞鶴市と連携している複数のクラブチームに、舞鶴市内の中学生が参加する方法です。
○チームの指導方針や目標、練習内容や活動日等を確認した上で、参加するチームを選ぶことができます。

| 実施競技 | 団体名 | 代表者 | 指導方針・活動人数等<br>実施日時【場所】 | 参加対象校 |
|---|---|---|---|---|
| 野球 | 鶴友クラブ | | 指導方針「中学生を対象に正しい少年野球の育成、指導を図る。軟式少年野球を通じて地域の少年スポーツクラブの進行を図るとともに、少年の体力増強、精神鍛錬、野球技術の向上の場となることを最大の目的とする」<br>現在の活動人数19名<br>①12/9(土) ②12/16(土) ③1/13(土) ④1/20(土) ⑤1/27(土)<br>【すべてAM・青葉中学校グラウンド】 | 全中学校 |
| | 高野ドジャース | | スローガン「好きで始めた野球だから、もっと上手に！もっと楽しく！」<br>現在の活動人数16名<br>①12/9(土) ②12/16(土) ③1/13(土) ④1/20(土) ⑤1/27(土)<br>【すべてAM・高野小学校グラウンド】 | |
| | 中筋少年野球クラブ | | 指導方針「青少年の健全育成及び青年に向かっての人間形成の構築」<br>現在の活動人数15名<br>①12/9(土) ②12/16(土) ③1/13(土) ④1/20(土) ⑤1/27(土)<br>【すべてAM・城南中学校グラウンド】 | |
| | | | AM(9:00～12:00)　PM(13:00～16:00) | |

# 2．実証内容と成果

## 年間の事業スケジュール（事業のパターンと実施日程等）

### 実証事業パターン2「学校部活動を地域の人が指導する」




○現存の学校部活動（学校単位）を地域の人材が指導する方法です。
○今ある学校の部活動チームの練習を地域の指導者にみてもらいます。

| 実施競技 | 団体名 | 代表者 | 指導方針・活動人数等<br>実施日時【場所】 | 参加対象校 |
|---|---|---|---|---|
| バレーボール | 青葉バレーボールクラブ | | 指導方針「参加者全員が楽しんでバレーボールができ、互いを思いやり、どんな時でもチーム一丸となってプレーできる選手を育てる」<br>現在の活動人数15名<br>①10/21(土) ②10/28(土) ③11/18(土) ④11/25(土) ⑤12/2(土)<br>⑥12/9(土) ⑦1/13(土) ⑧1/20(土) 【すべてAM・青葉中第2体育館】 | 青葉中・男子のみ |
| | 京都想和ＶＣ | | 指導方針「想」相棒・仲間を心から信用し、心で支えてあげれる子、思いやりのある子になってほしい。「和」チームワーク・笑顔・なごみ、団体競技だからこそチームの大切さを学んで欲しい。<br>現在の活動人数20名<br>①10/9(月) ②11/26(日) ③12/24(日) ④1/7(日) ⑤1/8(月)<br>【すべてAM・白糸中学校体育館】 | 白糸中・女子のみ |
| バスケット | 城南ピングス | | 指導方針「バスケットボールの競技力向上と、コミュニケーション能力や協調性といった社会で重要な力をチームスポーツを通じて伝えていく」<br>現在の活動人数15名<br>①11/11(土) ②11/18(土) ③11/25(土) ④12/2(土) ⑤12/16(土)<br>【すべてAM・城南中学校体育館】 | 城南中・男子のみ |
| バドミントン | 舞鶴小学生バドミントン連盟 | | 指導方針「健康の増進とスポーツ選手としてのマナーを守り、人格の形成に寄与するとともに選手の育成を図る」<br>①9/30(土)AM ②10/7(土)PM ③11/4(土)AM ④12/16(土)AM<br>⑤1/20(土)AM 【加佐中学校体育館】 | 加佐中のみ |

AM(9:00～12:00)　PM(13:00～16:00)　参加対象校以外の生徒は申し込めません

# 2．実証内容と成果

## 年間の事業スケジュール（事業のパターンと実施日程等）

### 実証事業パターン3 「全中学校生徒を対象に合同で練習する」




○協会・連盟等の団体が全中学生を対象とし、合同で練習する方法です。
○合同部活動として、いろいろな中学校から多数参加するため、交流も深めることができます。

| 実施競技 | 団体名 | 代表者 | 指導方針・活動人数等<br>実施日時【場所】 | 参加対象校 |
|---|---|---|---|---|
| ソフトボール | 舞鶴ソフトボール協会 | | 指導方針「一人でも多くの生徒がソフトボールに親しみ、ソフトボールを通じてスポーツを愛好してもらいたい」<br>①10/28(土) ②11/11(土) ③11/18(土) ④12/9(土) ⑤12/16(土)<br>予備日11/23(木)、1/13,20,27(土) 【すべてAM・和田中学校グラウンド】 | 全中学校・女子 |
| ソフトテニス | 舞鶴ソフトテニス連盟 | | 指導方針「ソフトテニス競技の普及発展を図るために、舞鶴ソフトテニス連盟の指導者が、基本的なストロークとゲームができるまでの様々な技術等（審判技術も含）の習得、向上を目指し、必要に応じてクラス分けを行い合同練習会を実施する」<br>①11/19(日) ②11/25(土) ③12/3(日) ④12/16(土) ⑤12/23(土)<br>⑥1/13(土) ⑦1/21(日) 【すべてPM・前島テニスコート】 | 全中学校 |
| 柔道 | 舞鶴柔道連盟 | | 指導方針「修行で培った力は、相手をねじ伏せたり、威圧したりするために使うのではなく、世の中を良い方向に動かすために使わなければならない」という理念のもと、青少年の育成に励んでいる<br>①11/4(土) ②11/18(土) ③11/25(土) ④12/2(土) ⑤12/9(土)<br>⑥12/16(土) ⑦12/23(土) ⑧1/6(土) ⑨1/13(土) ⑩1/20(土)<br>⑪1/27(土) 【すべてAM・文化公園体育館柔道場】 | 全中学校 |
| 剣道 | 舞鶴剣道連盟中学錬成部 | | 指導方針「交剣知愛」を目的に人格の形成と剣道の探求をめざす<br>①10/22(日)AM【城南中体育館】 ②11/19(日)AM【青葉中第1体育館】<br>③11/26(日)AM【城北中体育館】 ④12/9(土)AM【白糸中体育館】<br>⑤1/21(日)AM【東体育館】 | 全中学校 |
| 陸上競技 | 舞鶴陸上競技協会 | | 指導方針「陸上競技を中心とした身体活動を通して、心身の健全な育成に寄与する」<br>内容：陸上競技に関する基礎基本の練習や体づくりのトレーニング<br>①10/14(土) ②10/21(土) ③11/4(土) ④11/25(土) ⑤12/2(土)<br>【すべてPM・白糸中学校グラウンド】 | 全中学校 |

# 2．実証内容と成果

## 年間の事業スケジュール

### 実証事業実施日一覧表

| 月日 | 曜 | AM | PM | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 9月30日 | 土 | ①バドミントン（加佐） | | |
| 10月7日 | 土 | | ②バドミントン（加佐） | |
| 10月9日 | 祝 | ①バレー女子（白糸） | | |
| 10月14日 | 土 | | ①陸上競技（白糸） | |
| 10月21日 | 土 | ①バレー男子（青葉） | ②陸上競技（白糸） | |
| 10月22日 | 日 | ①剣道（城南） | | |
| 10月28日 | 土 | ②バレー男子（青葉） | | |
| | | ①ソフトボール（和田） | | |
| 11月4日 | 土 | ③バドミントン（加佐） | ③陸上競技（白糸） | |
| | | ①柔道（文体） | | |
| 11月11日 | 土 | ①バスケット男子（城南） | | |
| | | ②ソフトボール（和田） | | |
| 11月18日 | 土 | ③バレー男子（青葉） | | |
| | | ②バスケット男子（城南） | | |
| | | ③ソフトボール（和田） | | |
| | | ②柔道（文体） | | |
| 11月19日 | 日 | ②剣道（青葉） | ①ソフトテニス（前島） | |
| 11月25日 | 土 | ④バレー男子（青葉） | ②ソフトテニス（前島） | |
| | | ③バスケット男子（城南） | ④陸上競技（白糸） | |
| | | ③柔道（文体） | ①ゆる部活（新舞鶴小） | |
| 11月26日 | 日 | ②バレー女子（白糸） | | |
| | | ③剣道（城北） | | |
| 12月2日 | 土 | ⑤バレー男子（青葉） | ⑤陸上競技（白糸） | |
| | | ④バスケット男子（城南） | | |
| | | ④柔道（文体） | | |
| 12月3日 | 日 | | ③ソフトテニス（前島） | |

| 月日 | 曜 | AM | PM | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 12月9日 | 土 | ①野球（青葉・城南） | ①野球（高野） | |
| | | ⑥バレー男子（青葉） | | |
| | | ④ソフトボール（和田） | | |
| | | ⑤柔道（文体） | | |
| | | ④剣道（白糸） | | |
| 12月10日 | 日 | ②ゆる部活（城南） | | |
| 12月16日 | 土 | ②野球（青葉・城南） | ④ソフトテニス（前島） | |
| | | ⑤バスケット男子（城南） | ②野球（高野） | |
| | | ④バドミントン（加佐） | | |
| | | ⑤ソフトボール（和田） | | |
| | | ⑥柔道（文体） | | |
| 12月23日 | 土 | ⑦柔道（文体） | ⑤ソフトテニス（前島） | |
| 12月24日 | 日 | ③バレー女子（白糸） | | |
| 1月6日 | 土 | ⑧柔道（文体） | | |
| 1月7日 | 日 | ④バレー女子（白糸） | | |
| 1月8日 | 祝 | ⑤バレー女子（白糸） | | |
| 1月13日 | 土 | ③野球（青葉・城南） | ⑥ソフトテニス（前島） | |
| | | ⑦バレー男子（青葉） | ③野球（高野） | |
| | | ⑨柔道（文体） | | |
| 1月20日 | 土 | ④野球（青葉・城南） | ④野球（高野） | |
| | | ⑧バレー男子（青葉） | | |
| | | ⑤バドミントン（加佐） | | |
| | | ⑩柔道（文体） | | |
| 1月21日 | 日 | ⑤剣道（東体） | ⑦ソフトテニス（前島） | |
| 1月27日 | 土 | ⑤野球（青葉・城南） | ⑤野球（高野） | |
| | | ⑪柔道（文体） | | |

# 2．実証内容と成果

## 地域スポーツクラブ活動の運営実績

| | | | |
|---|---|---|---|
| 拠点校数 | ７校 | 地域クラブ活動に取り組んだ種目 | 野球・男子バレーボール・女子バレーボール・男子バスケットボール・バドミントン・ソフトボール・ソフトテニス・柔道・剣道・陸上競技 |
| 地域クラブ活動に取り組んだ部活動数 | ３９部活 | | |

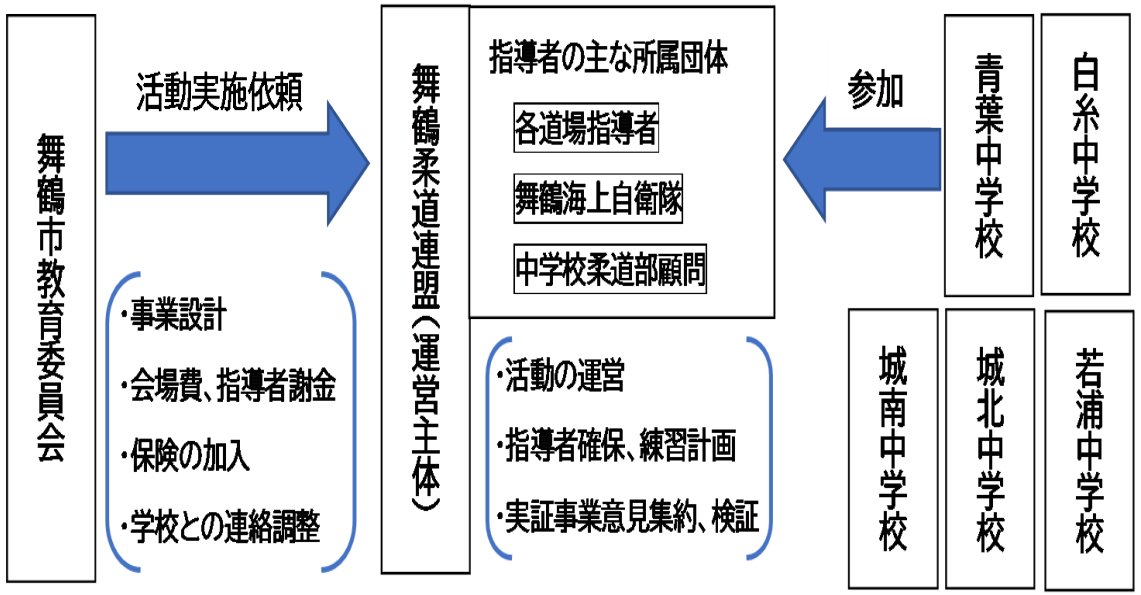
## 主な取組例

### ▼活動概要

| | |
|---|---|
| 拠点校名 | 青葉・白糸・城南・城北中学校 |
| 地域クラブ活動に移行した部活動数 | ４部活 |
| 地域クラブ活動で実施した種目 | 柔道 |
| 運営主体名 | 舞鶴柔道連盟 |
| 運営類型 | 市区町村運営型（地域団体・人材活用型） |
| １か月あたりの平均的な活動回数 | 11月～1月　11回<br>月４回程度 |
| 指導者の主な属性 | 舞鶴柔道連盟所属 |
| 活動場所 | 舞鶴文化公園体育館　柔道場 |
| 主な移動手段 | 自転車・保護者送迎 |
| １人あたりの参加会費等（年額） | ０円 |
| １人あたりの保険料 | スポーツ安全保険<br>生徒１人あたり：800円/年<br>指導者１人あたり：1,850円/年 |

### ▼運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）

（運営体制図1）



# 2．実証内容と成果

## 地域スポーツクラブ活動の運営実績

| | | | |
|---|---|---|---|
| 拠点校数 | ７校 | 地域クラブ活動に取り組んだ種目 | 野球・男子バレーボール・女子バレーボール・男子バスケットボール・バドミントン・ソフトボール・ソフトテニス・柔道・剣道・陸上競技 |
| 地域クラブ活動に取り組んだ部活動数 | ３９部活 | | |

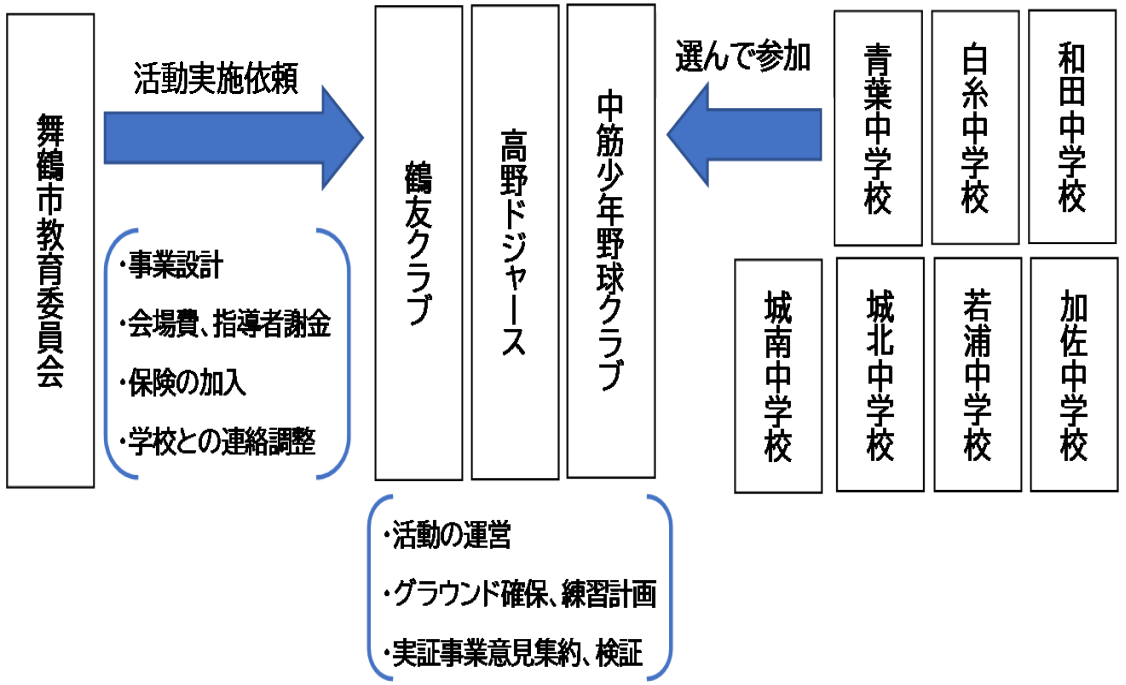
## 主な取組例

### ▼活動概要

| | |
|---|---|
| 拠点校名 | 青葉・白糸・和田・城南・城北・若浦・加佐中学校 |
| 地域クラブ活動に移行した部活動数 | 7部活 |
| 地域クラブ活動で実施した種目 | 野球 |
| 運営主体名 | 鶴友クラブ・高野ドジャース・中筋少年野球クラブ |
| 運営類型 | 市区町村運営型（地域団体・人材活用型） |
| １か月あたりの平均的な活動回数 | 12月～1月　5回<br>月３回程度 |
| 指導者の主な属性 | 舞鶴少年野球連盟所属 |
| 活動場所 | 青葉中学校・泉源寺多目的グラウンド<br>高野小学校・高野小体育館<br>城南中学校グラウンド・城南中体育館 |
| 主な移動手段 | 自転車・保護者送迎 |
| １人あたりの参加会費等（年額） | ０円 |
| １人あたりの保険料 | スポーツ安全保険<br>生徒１人あたり：800円/年<br>指導者１人あたり：1,850円/年 |

### ▼運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）

（運営体制図2）



# 2．実証内容と成果

## 取組内容

### ▼取組項目名：ア．複数の地域クラブ活動から選択し参加する

**取組事項**

12月と1月の2ヶ月間、全中学校野球部の休日の部活動を停止し、地域クラブチームの３団体に土曜日の部活動を受け入れていただき、生徒の募集をした。２ヶ月でそれぞれ５回の計画をし、雨天時は校舎や体育館等を使用しすべて実施することができた。

学校部活動が休みになることで、地域クラブチームに所属していない生徒の参加状況や教員の働き方改革や今後の兼職兼業についてアンケート調査を行い、来年度以降の取組の方向を検討する。

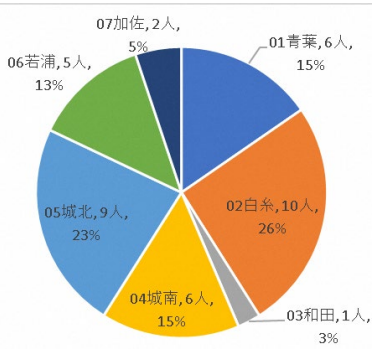
**取組の成果**

舞鶴市内全中学校1,2年生の野球部所属生徒の66名の内、実証事業に参加申込みをした生徒は39名であった。59%の生徒が実証事業に申し込んだことになり、その内、クラブチームに所属していない生徒は12名であった。

また、兼職兼業届を提出し実証事業に参加した教員は2名で、舞鶴市立中学校の野球部顧問14名が12～1月の休日に休むことができた。

参加した生徒の感想には、「自分のしたいことが満足にでき、仲間と共に頑張る力や礼儀やマナーなどの自分自身の成長を感じることができるいい活動だと思う」や「とても楽しく活動でき、技術も向上する」などの意見があった。

| 学校名 | 参加 | 不参加 |
|---|---|---|
| 青葉中 | 6人 | 5人 |
| 白糸中 | 10人 | 0人 |
| 和田中 | 1人 | 8人 |
| 城南中 | 6人 | 3人 |
| 城北中 | 9人 | 6人 |
| 若浦中 | 5人 | 1人 |
| 加佐中 | 2人 | 4人 |
| 計 | 39人 | 27人 |




**特に工夫した事項**

休日の地域移行を進めるために、11月から３か月間の停止を望んだが、中体連の大会があったため舞鶴市の顧問会からの了解を得ることができなかった。12月から1月までの２か月は学校部活動を停止することができ、どのチームも学校施設を優先利用し、会場費は無料で実施できた。雨天など急な練習場所の変更についても、保護者のメールアドレスを利用したり、学校ごとに連絡システムをつくったり、各チームごとに混乱なくスムーズな連絡をすることができた。

＜地域移行への見通し＞

野球については、現在舞鶴市には５つの少年野球チームが存在している。今回の実証事業については3チームが協力した。2チームは生徒の人数不足等で実施が難しかったが、今後も存続するようである。学校部活動で土日の活動がなくなっても野球は受け皿があるので、地域移行ができる見通しが持てた。

**今後の課題と対応方針**

今回の実証事業に参加しなかった生徒の理由は、「休日は休みたかった」が20名、「参加したいチームがなかった」が4名、「活動場所にいくのが難しかった」が2名、「土日は野球以外の活動をしている」が1名であった。交通手段がないという理由より、休みたいという理由の方が多く、学校部活動から地域クラブ活動に移行した際、中学生のスポーツ離れが懸念される。種目を問わず、魅力ある活動を提供する必要がある。

# 2．実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
**イ：指導者の質の保証・量の確保**
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取り組み
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

## 取組内容

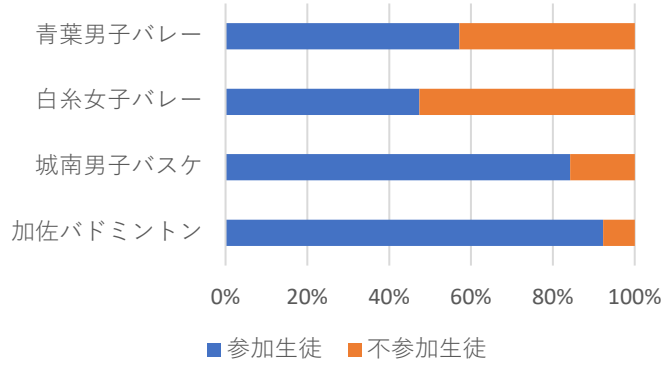
### ▼取組項目名：イ：学校部活動を地域人材が指導する

**取組事項**

学校単位で構成している学校の部活動を地域の人材が指導する方法で、青葉中男子バレーボール部、白糸中女子バレーボール部、城南中男子バスケットボール部、加佐中バドミントン部で実施した。青葉中男子バレーは９回、白糸中女子バレーは３回、城南中男子バスケは５回、加佐中バドミントンは５回実施できた。この取組は土日の学校部活動を中止して実施する必要があるため、各学校顧問との連携が大切である。この取組で地域人材と学校顧問の連携に焦点を当てて検証する。

**取組の成果**

実証事業に参加した生徒は、青葉中男子バレー16名（所属28名中）、白糸中女子バレー9名（所属19名中）、城南中男子バスケ16名（所属19名中）、加佐中バドミントン12名（所属13名中）であった。どの取組も、生徒と指導者の関係がしっかり構築され、一生懸命活動する姿が見られた。青葉中男子バレーと城南中男子バスケは指導者と顧問の連携が上手くでき、特に青葉中では5回の予定を９回にするなど充実した活動ができた。生徒の感想では、「地域クラブでは、基礎など平日の部活とは違った内容ができて、とても意味のある良い練習になったと思った。」という意見や多くの生徒が「楽しかった」と感想に書いていた。




**特に工夫した事項**

学校単位で構成しているので、このパターンの取組は容易にできると考えていたが、土日の学校部活動を中止することと、トラブルやケガ等の責任の所在という点で難しい部分が生じた。白糸中女子バレーは中体連の大会で新人戦から勝ち上がり上位大会への参加が多くあったため、実証事業の日程を組むのが難しかった。トラブルやケガ等の責任については、指導者個人に任せてしまわずに教育委員会が窓口になり、保護者対応ができるように体制を整えた。

＜地域移行への見通し＞
学校単位の部活動に指導者を配置する方法は、地域の指導者と学校顧問がしっかりと連携し協力する必要がある。今回の取組で部活動指導員や保護者などチームに関わりが強い場合はうまくいくことがわかった。各学校には地域の指導者がうまく指導している部活動があり、その場合は単体での地域移行ができると思われる。

**今後の課題と対応方針**

学校単位の部活動で実施したが、すべての生徒が参加したわけではなかった。休日は休みたいと思っている生徒がいたり、学校顧問がいないのなら行きたくないといった意見が見られた。また、参加した生徒の中には、「基礎練習ばかりで面白くなかった。」や「学校の部活よりきつかった」などの意見もあり、地域指導者と学校顧問との綿密な打ち合わせと信頼関係の構築が必要であると思われた。

# 2．実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保証・量の確保
**ウ：関係団体・分野との連携強化**
エ：面的・広域的な取り組み
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

## 取組内容

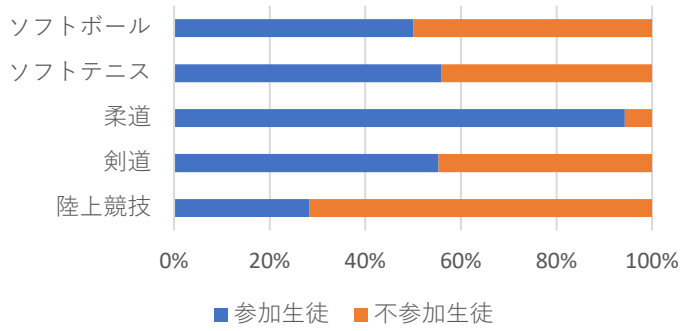
### ▼取組項目名：ウ：全中学校の生徒を対象に合同で練習する

**取組事項**

舞鶴市スポーツ協会に所属している各競技の協会や連盟に依頼し、市内全中学校を対象に合同練習を実施した。実施種目はソフトボール、ソフトテニス、柔道、剣道、陸上競技の5種目で、昨年度も取り組んだ4種目にソフトテニスを加えた。ソフトテニスは市内の中学生が一番多く所属している種目であり、今後の地域移行の参考にしたいと考えた。また、昨年度までは学校単位の申込みや参加者へ連絡を学校顧問がするなど、学校が主体になっていたが、今年度は個人申込みにし、参加者への連絡を協会・連盟に任せることとした。

**取組の成果**

実証事業に参加した生徒は、ソフトボール13名（全中学校26名所属）、ソフトテニス114名（全中学校204名所属）、柔道33名（全中学校35名所属）、剣道26名（全中学校47名所属）、陸上競技45名（全中学校159名所属）であった。令和3年度から取り組んでいる柔道は、11月～1月全ての土曜日（大会以外）で11回の実施ができた。参加率も大変高く、完全移行に向けての見通しを持つことができた。生徒の感想に「楽しいし強くなれていてうれしい。」や「高校生や大人の人ともできるし、教えてくれる先生もいるのでいい。」という意見があった。




**特に工夫した事項**

全中学校を対象に行うために、学校部活動を停止して取り組んだ。今回実施した種目は地域移行に向けて前向きに考えている協会や連盟で、強い協力体制のもと取り組んでいただいた。また、学校顧問も兼職兼業の申請をして地域の一員として指導するなど協力的であった。剣道については、東舞鶴と西舞鶴で交互に会場を設定し、送迎と移動における配慮をした。ソフトテニスが114名と参加申込みが多くあったが、指導者の数を増やし対応することができた。

＜地域移行への見通し＞
柔道と剣道については、来年度から年間を通して地域移行ができる指導体制が整っている。しかし、あくまでも合同練習会ができるレベルで、大会参加は学校単位になりそうである。ソフトテニスや陸上競技のように競技人口の多い種目は、舞鶴全体の合同練習は難しく、指導体制や会場設定の課題を解決する必要がある。

**今後の課題と対応方針**

各競技によって、成果と課題が全く異なる取組となった。ソフトボールは競技人口が減少しており、地域移行した際の生徒確保や活動場所が課題となっている。逆にソフトテニスは競技人口が多く、移行した際の受け皿の確保が課題である。陸上競技においては、今回東地区の白糸中が会場となったため、西地区の学校の生徒がとても少なかった。柔道と剣道は連盟の協力体制が整っており、生徒数も一つの会場で十分活動できる人数である。剣道は西と東を交互にしたが不参加の生徒が多くあり、会場までの送迎や移動の課題が見られた。

# 2．実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保証・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
**エ：面的・広域的な取り組み**
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

## 取組内容

### ▼取組項目名：エ：学校部活動にある競技種目以外の取り組み

**取組事項**

舞鶴市としては、単に今ある学校の部活動を地域へ移行するだけの取組をするのではなく、小中学生すべての児童生徒が豊かなスポーツライフと豊かな文化芸術活動が経験できるよう考えている。そのために実証事業として「基礎部活」を総合型地域スポーツクラブに委託し取り組んだ。競争や勝敗に強くこだわらないレクレーションスポーツ（ゆる部活）を２回と運動の基礎となるストレッチやトレーニング（トレーナー部活）を１回と、合計３回実施した。

**取組の成果**

全体の募集では申込みをする生徒がなかったが、白糸中学校と城南中学校に直接募集をし、それぞれの学校で１回ずつ実施した。白糸中は15名、城南中は7名の参加であった。参加した生徒の感想に、「普段知らないスポーツについて触れられたし、何と言ってもやっていてどれもやりごたえを感じたし楽しかった」「勝ち負けがある中で、勝っても負けても楽しめるといった内容になっているのが良かった」「私はあんまり運動が得意ではないし、好きでもないけど、そういうのをあまり感じず、楽しくボッチャとかかるたとかができていいなと思いました。そして、いつもしないことだから学校の授業とかに入れてもらえたらいいなと思いました。」という意見があり、ほとんどの生徒が楽しく活動できたという感想を書いていた。

＜実施種目及びアンケート＞
白糸中・・・ボッチャ、舞パック、キンボール
生徒アンケートより
とても良かった（12名）良かった（3名）
良くなかった（０名）
城南中・・・ボッチャ、舞パック、スポーツかるた
生徒アンケートより
とても良かった（5名）良かった（2名）
良くなかった（０名）

**特に工夫した事項**

普段体を動かさなかったり、運動が苦手だったりする生徒が初めて行う種目であるということから、それぞれの種目の協会から指導に来てもらい、丁寧な説明と優しい対応を心掛けていただいた。特にキンボールはボールの扱いが難しく、競技性も高いため、レクレーション的な動きからスタートすることで生徒は安全に活動でき、楽しく取り組むことができた。

＜地域移行への見通し＞
生徒のニーズを増やすことが大切である。ニーズがあれば、土日の活動の受入れ体制は整っている。中学生のみに募集をするのではなく、小学生にも体験の機会を増やしていくことが、今後のニーズにつながると考える。

**今後の課題と対応方針**

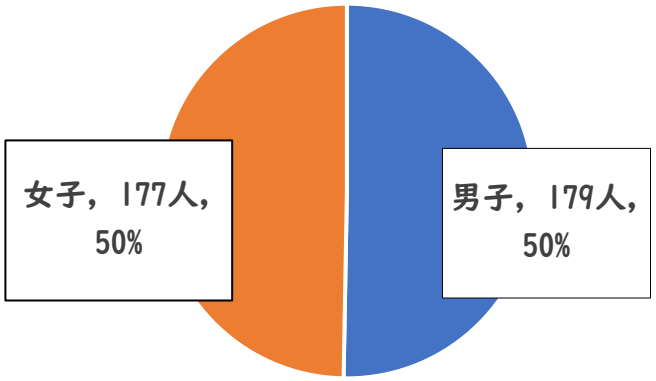
最初の募集で申込みがなかった理由の一つに、学校部活動になく経験したことがない種目ということもあったからと思われる。参加した生徒の感想で良くなかったと答える生徒は1人もなく、すべての生徒が良かったと答えている。このことから、ゆる部活についての認知度を高め、その楽しさを体験してもらうことが大切であると考える。舞鶴市としては、競技スポーツのみを移行するのではなく、運動の苦手な生徒や普段人との関りが苦手な生徒の受け皿も作りたいと考えている。文化系の地域クラブ活動とともに小中学生の受け皿になるように取り組んでいきたい。

# 2．実証内容と成果

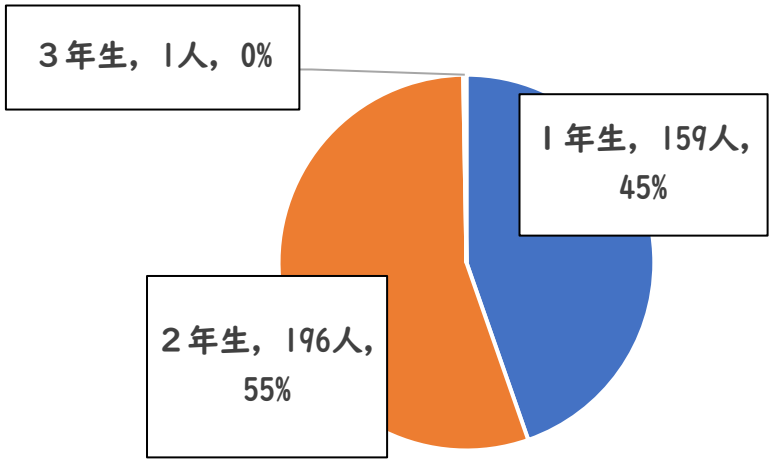
## 参考資料（アンケート結果、広報物、協議会等で使用した資料の抜粋等）

**申込状況：３５６人**

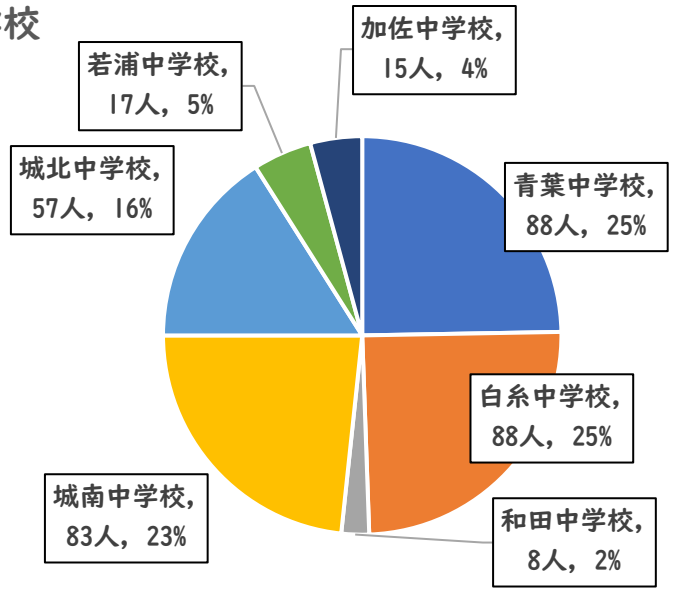
①性別



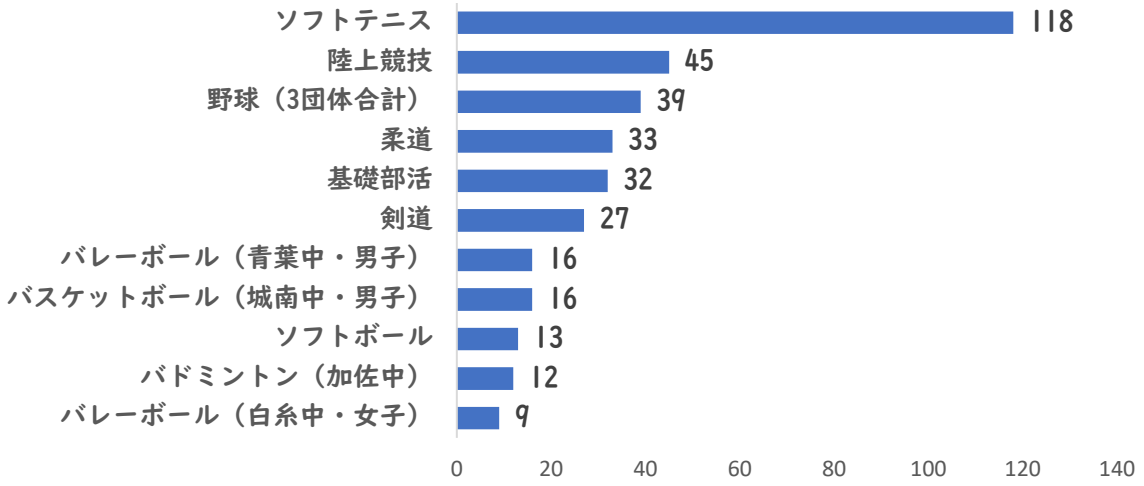

②学年




③学校




④種目別




【第2回舞鶴市部活動地域移行あり方検討会　資料より】

# 2．実証内容と成果

## 参考資料（アンケート結果、広報物、協議会等で使用した資料の抜粋等）

令和５年11月7日発行

### 舞鶴市部活動地域移行News ＝第1号＝

舞鶴市立中学校の部活動改革に関するニュースレターをお届けします

#### 部活動の地域移行とは？

- 「部活動の地域移行」は、国（スポーツ庁と文化庁）が全国的に進めている動きです。
- 生徒の減少に伴い、以前と同じように部活動ができなくなっている状況があるため、子どもたちがやりたい活動を今後もしていけるようにするための改革です。
- 舞鶴市では、国の地域移行の実証事業に令和３年度から参加し、取組を進めています。
- 今年度の取組を中心にこのレターではお知らせします。

#### News01：舞鶴市部活動地域移行あり方検討会を開催しています！

- 舞鶴市立中学校の部活動の今後のあり方について幅広く話し合う場として、令和５年８月10日に第１回「舞鶴市部活動地域移行あり方検討会」が開催されました。
- 検討会の委員は以下の団体から参加いただいています。

| | |
|---|---|
| 学識経験者 | 立命館大学スポーツ健康科学部 長積 仁 学部長 |
| 地域スポーツ団体 | 舞鶴市スポーツ協会、舞鶴市スポーツ少年団<br>総合型地域スポーツクラブ（舞鶴ちゃったスポーツクラブ）<br>開放型地域スポーツクラブ（TOMAIスポーツクラブ）<br>舞鶴市スポーツ推進委員連絡協議会 |
| 地域文化芸術団体 | 舞鶴文化協会、舞鶴文化教育財団 |
| 学校 | 中学校校長会、中学校体育連盟 |
| 保護者 | PTA連絡協議会 |
| 教育委員会 | 教育委員会指導理事 |

- 第１回検討会では、現状について共通理解を持っていただくため委員へ事務局から説明を行い、各団体で考えている課題や、今後の取組に対して期待することなどを意見していただきました。
- 次回は12月中旬に実施する予定です。

#### News02：市長の定例記者会見で部活動の取組を広報しました！

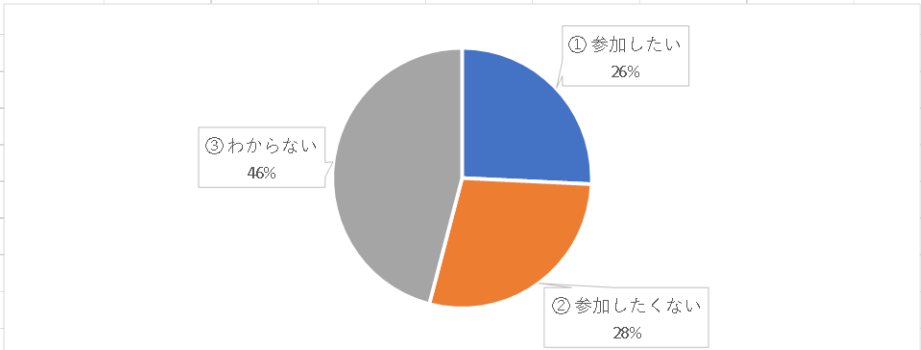


- 8月29日（火）の市長の定例記者会見で、中学校部活動の地域移行にかかる取組について広報しました。
- 地域移行をなぜ行う必要があるのかや、令和３年度から実施している実証事業の取組、あり方検討会などの取組を幅広く説明しました。

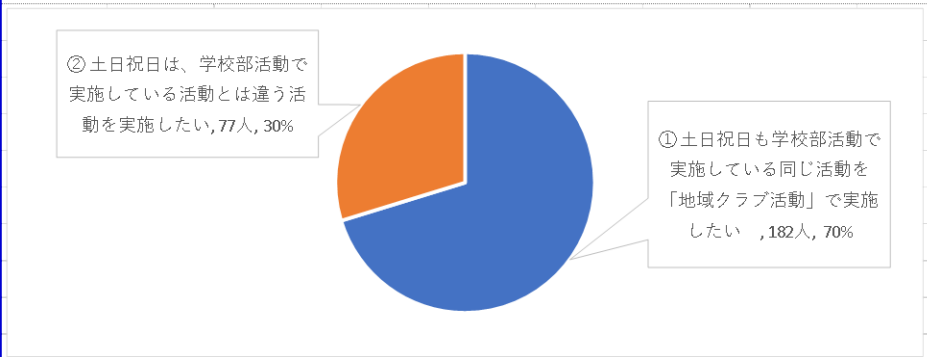
◀記者会見の様子はこちらからご覧いただけます。（31分10秒あたり～）

【舞鶴市部活動地域移行News】

(3)　今後、土日祝日の部活動が、地域の指導者が実施する「地域クラブ活動」になるならば、あなたは活動に参加したいですか？




(4)　(3)で「①参加したい」と答えた人にお聞きします。地域クラブ活動ではどんな活動をしたいですか。




(5)　(4)で「②土日祝日は、学校部活動で実施している活動とは違う活動を実施したい」と答えた人にお聞きします。地域クラブ活動ではどんな活動をしたいですか。具体的にやりたいものがあれば教えて下さい。（自由記述）

試合（6）、陸上競技（個別種目の練習）（5）、バドミントン（3）、テニスの前衛（後衛）（3）、卓球（3）、バレーボール（2）、柔道（2）　など

【舞鶴市実態調査（中学生）より抜粋】

# 2．実証内容と成果

## 参考資料（活動写真）



【柔道】



【剣道】



【バドミントン】



【ゆる部活（ボッチャ）】

# 2．実証内容と成果

スポーツ庁

## 地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

**令和３年**
舞鶴市地域運動部活動合同会議の設置、実施種目の選定

**令和４年**
合同会議の充実拡大、受け皿団体の拡大

**令和５年**
舞鶴市部活動地域移行あり方検討会議の設置

受け皿団体及び指導者の募集、個人申込みの実施

**令和６年（計画）**
あり方検討会の充実・文化部の実証事業の実施

地域移行の実証事業の精選

●合同会議参加者
・スポーツ協会会長　・スポーツ少年団会長
・ちゃったスポーツ会長　・中学校長会長
・中体連会長　・スポーツ振興課課長
・教育委員会指導理事　・学校教育課長
・教育委員会指導主事　・事務局

●事業実施競技（3年度:3　4年度:5）
・剣道　・柔道　・陸上競技　・ソフトボール
・基礎部活（ゆる部活、トレーナー部活）

●実施に至るまでの経過
実施当初は地域移行に関する認知度が低く、実証事業の受け皿になる団体を決めることが難しいと思われた。これらの実施種目を決めた理由は、中体連専門部の部長が協会の一員であり協会の協力が期待できるからである。
基礎部活は学校部活動になく、運動が苦手な生徒が運動に親しむことのできるレクレーション的な種目として実施した。

●実施回数（令和4年度）
・剣道17回　・柔道8回　・陸上競技3回
・ソフトボール1回　・基礎部活7回

●あり方検討会参加者
・有識者（立命館大学教授）・中学校長会長
・教育委員会指導理事　・TOMAIスポーツクラブ
・スポーツ推進委員会副会長　・ちゃったスポーツ
・文化教育財団理事　・文化協会副会長
・スポーツ協会会長　・PTA連絡協議会副会長
・中体連会長　・スポーツ少年団会長

●事業実施競技（10競技13団体）
・野球　・バレーボール　・バスケットボール　・柔道
・バドミントン　・ソフトボール　・ソフトテニス　・剣道
・陸上競技　・基礎部活

●実施に至るまでの経過
令和8年度の完全移行に向け、5年度は実証事業の受け入れ競技団体を大幅に増やした。事業の補助金に上限があるため、期間を絞り実施回数を減らした。参加可能な団体を公募し、３つのパターンを試してみた

●昨年度までとの違い
昨年度までは、全て学校の顧問を通じて生徒申込みをしていたが、今年度は電子申請を使っての個人申込みとし、顧問の負担軽減に取り組んだ。

●あり方検討会の充実（専門部会の開催）

●実証事業の精選
・年間を通して実施できる種目の選定
・休日に学校部活動のない期間をつくり、移行できる種目の検証
・単体の学校部活動へ地域人材の活用
・文化部における検証
・市内高等学校との連携
・ゆる部活や文化芸術活動の実施

●土日受入れ可能な地域スポーツ団体の紹介

●実証事業における工夫すべき点
・柔道や剣道については年間を通じた実証事業を行いたい。
・学校部活動のない期間に、舞鶴市内の全中学生が受入可能な種目で実施を目指す。
・合唱部の実証事業を実施。
・吹奏楽部については、市内の高等学校との連携を検討。
・ゆる部活や文化芸術活動の実証事業を行い、既存の学校部活のみの移行にならないよう実施方法等を工夫する。

# 3．今後の方向性

## 地域連携･地域移行の推進に向けた今後のロードマップ

